

永松だより

松源寺開創

500年

平成33年・2021年



みなさまのお知恵とお力を合わせていただき この佳きめぐりあわせを寿ぎましょう

そうじょう
相承

松源寺本堂建立八〇年を迎えて



松源寺の現本堂は昭和十一年（一九三六）十一月に建立されました。今年には本堂建設が計画されてから八〇年、来年平成二十八年（二〇一六）は本堂落慶から八〇年を迎えます。今年と来年は松源寺本堂

会が組織され、後にそれが「永松会※」となり今日まで継承されています。（※永は永平寺 松は松源寺）そして、三十五世智堂泰典師へと引き継がれ現在を迎えています。曹洞宗では「大本山總持寺二

祖峨山韶碩禪師六五〇

回大遠忌」の本年、相

承（弟子が師から法や学問を受け伝えること）をテーマとして様々な行持が行われていますが、松

源寺においてもこのようにして法灯が力強く繋がってまいりました。建築物は時が来れば

建て替



えることとなります

が、泰典師は仙台空襲

も逃れ、先の宮城県沖地震にも、この度の東

日本大震災に耐えた本堂を、永く大切にしたいと思っています。

の時に現在の本堂が建立されました。この当時のお檀家の皆様の菩提寺を興隆させたいと願う熱気が感じられる写真です。その時の役員の皆様や檀信徒の方々が松源寺を支える礎を作ってくださいました。三十四世智貫孝善師の代には庫裏会館建設の時に建設実行委員

平成二十七年松源寺研修旅行ご案内

今年には大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師六五〇回大遠忌の年になります。その足跡を訪ね能登半島への旅行を企画致しました。

總持寺は太祖常濟大師瑩山紹瑾禪師様によって能登の門前に開かれ、後に峨山禪師が受け継ぎました。また羽咋市の永光寺も兼務されました。その距離は山道で二三里（約五一キロメートル）。この二つのお寺を朝のお勤めの中に往来しました。

峨山禪師は二十五哲と呼ばれる優れた弟子を育て、現在全国一万五千余ヶ寺の一宗派では最大数の大教団の基を築かれました。その功績を顕彰し、開通したばかりの北陸新幹線に乗って能登半島の旅を満喫したいと企画致しました。どうぞご友人の方もお誘い合わせいただき、楽しい旅にしたいと存じます。

期日 平成二十七年六月二十三〜二十五日（二泊三日）
●お問い合わせは松源寺まで。

峨山往来要図



*話題は多岐にわたり充実していましたが、紙面の関係上多くを割愛せざるを得ませんでした（編集子）

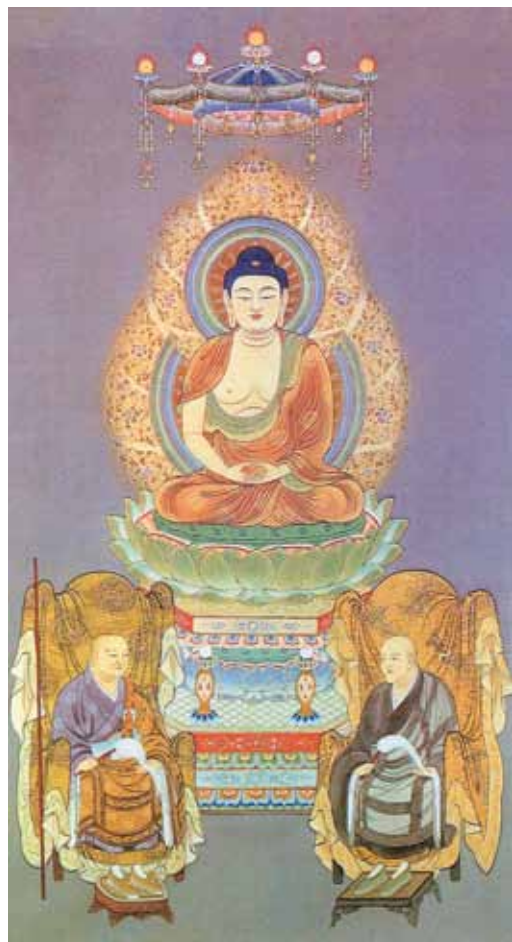
両祖忌



大本山永平寺を開かれた高祖承陽大師道元禪師様は、建長五年（一二五三）八月二十八日に、京都高辻西洞院覚念邸で、五四歳で示寂されました。また、大本山總持寺を開かれた太祖常濟大師瑩山禪師様は、正中二年（一三二五）八月十五日に、石川県羽咋市の永光寺にて、五八歳で示寂されました。

両祖大師の示寂された両日を、近代に入り太陽暦に換算したところ、まことに不思議なことに、年こそ違え、いずれも九月二十九日となりました。これを受けて、明治十年十二月二十日に制定された「祖師忌改正条例」では、太陽暦での九月二十九日を、両祖大師のご命日として、「両祖忌」と定めました。以来、曹洞宗のお寺では、この九月二十九日には、道元禪師様と瑩山禪師様の両祖の御遺徳を偲び、報恩感謝の法要を営んでおります。

（曹洞禅ネット）



瑩山禪師

道元禪師

三尊仏

さが たず 探訪ねて

松源寺の御縁

遠藤勇五郎時習

第5回

伊達綱村公の時代、貞享元年（一六八四）平塚村右衛門重次が仙台藩の弓術指南役となることにより、雪荷派の射芸がもたらされることになりました。その堂形稽古所は、松源寺の近く現在の宮城県工業高校のあたりに在りました。以後、仙台藩雪荷派は継承され、藩政時代の最後を迎えようとするところに、遠藤勇五郎時習が弓術指南役になります。時習二十四歳の折、父時中（ときなか）に死別しますが、指南役であった父の跡を継いだのは山内三保吉英雄でした。このころの時習は「早氣」で、家業を継げる腕前ではありませんでした。早氣とは、発射の機が熟さないのに射てしまう悪い癖です。この時習を立て直したのは母天蔵院でした。「このままでは亡き夫に申し訳が立たないから、二人とも死ぬことにしましょう。お前はこの母をお前の弓で射殺して、その後に自害しなさい」と説得します。的前に立ち弓をキリキリと引き絞るその矢面には母が立っています。さすがに矢を放つことはできません。時習がこれまでと観念した時に、時雪の射形が入神の妙技に変わります。その時「善し、その呼吸を忘れるでない！」と言い放ち母はスツと矢面を離れます。母の命を賭した行動によって、時習は「早氣」を克服し雪荷派の極意に達しました。そして、成長した時習に山内英雄は射芸指南役を譲りました。その後時習は、江戸深川の堂において通し矢の新記録を作って江戸一の名声を博し宿願を遂げたのでした。時習は嘉永四年五月に、行年五十五歳で没しました。そのお墓が松源寺にあります。

（参考…『弓聖阿波研造』池沢幹彦「東北大学出版会」）



松源寺三十四世再興智貫孝善大和尚一周忌法要

命日の丁度一か月前の二月二十日（金）、寒気は残るものの前日までの不安定な気候とは一転して青空が広がりました。その穏やかな光の中、松源寺三十四世再興智貫孝善大和尚の一周忌法要が執り行われました。導師は峰仙寺大方丈千葉省三老師（気仙沼市津谷）。五〇名に迫る僧侶が集い、出班焼香（御位牌に向かい導師を中心に両班の八名が横一列に並びご焼香を行う）で最高位の敬意を表する法要が営まれました。松源寺通信をご覧になり十数名の参列者がありました。

最後に、現住智堂泰典和尚が宗門とお檀家のために松源寺をさらに充足させてゆきたい思いを述べました。脇にはご子息の大輝師がしっかりと寄り添っていました。ご縁を大切に繋ぎ、多くの人たちがでそのご遺徳を偲ぶご法要となりました。



第二回 3.11を忘れない 祈りの集い

早朝にはうつすらと雪景色でしたが、昼にはすっかり日差しが蘇りました。「今年はインフルエンザにならないように十分気を付けました」と柴山光由さん。堀下さゆりさんは相馬のご出身。チェリストの明珍幸希さんも福島県の方。『慟哭の記録』編著者金菱清先生もご参加された。松源寺本堂において東海泰典和尚が導師となり、法要を営んだ後、場所を「永松閣」に移し、朗読会とコンサートを行いました。柴山さんの朗読が聴衆を四年前に引きずり込みます。『慟哭の記録』が文字の力であるならば、声の力が文字の世界を立ちあがらせて追ってくる。一話三〇分が

＊禅の小窓5＊ 道本円通＊

二話。会場はざわつくこともなく、集中した朗読のなせる業に魅せられました。

堀下さゆりさんの歌と電子ピアノ、明珍さんのチェロがハーモニーを紡ぎだします。ことが声となり、リズムを刻みメロディーを奏でます。声の魅力。二時四十六分の黙とうを挟んで歌い切ることの強さ。そして手拍子、手拍子、手拍子「グッバイ・レイニーデイ」。「来年もやります」とご住職は力強く閉会の言葉を述べました。



堀下さゆりさん

柴山光由さん

短歌

佐々原洋子（仙台市泉区）

道端の花を手折てテーブルに

飾ればたちまちあなたは主役

なんとなく微笑み返し擦れ違う

春のような和らかき人

俳句

桃野サチコ（仙台市青葉区）

なぐさめの此の逝き方とのぞむ声

夫に似て子等の手温し冬の虹

文芸の風 読者の皆様からの投稿作品を紹介します

本をよむ 第3回

『一步先へ 二歩先へ 三・一一その先へ』

早坂文明（藩山房）。価格 1,000（税込）

早坂文明（宮城県山元町徳本寺住職）師は、テレホン法話（電話 0223-38-1717 で聞くことができます）を発信し続けて今年で 1,000 話を迎えようとしています。

東日本大震災の傷跡生々しいさなか、息をつめて復旧へ力を合わせた日々のテレホン法話をまとめた『まっすぐに ただまっすぐに 三・一一その先へ』（金港堂）が出版されて大きな話題となりました。『一步先へ 二歩先へ 三・一一その先へ』（藩山房）は、復興への歩みが孕む混沌の芽が噴き出してきた被災地を背景に綴られたその続編です。

早坂師が住職を兼務する徳泉寺は津波にすべてを流されましたが、御本尊様が奇跡的に見つかりました。どんな災難に遭っても、人々の支えになろうとする一心で踏み止まったものと信じて、「一心本尊」と名付けられ、徳本寺に仮安置されています。2013 年の大晦日、NHK テレビ「ゆく年くる年」の中で、徳本寺からの中継も放送されました。除夜の鐘が響く中、ライトアップされた本堂が映し出されました。一心本尊の御姿と、徳泉寺を復興するために展開している「はがき一文字写経」運動に呼应し、全国から届いたたくさんののはがきが映し出されました（第 938 話）。「鐘は一里鳴って 二里響き 三里わたる その響いてわたる間に祈るのである」と言ったのは、永六輔さんです。梵鐘のいいところは、単に音が鳴るというのではなく、響き渡るという点です。どこまでも祈りが届くような気がします。除夜の鐘を撞きながら、或いは聴きながら、復興の日も早からんことを祈りましょう（第 936 話）。一話一話が真情にあふれ、皆様の心のよすがとなる一冊です。

